

JOCV 千葉 OB 会報

2023年8月
No. 103

夏号

1. 副会長挨拶

国際協力や国際交流活動の目的は何でしょうか。

OB 会行事に参加したある女子高生が私に尋ねてきた。その時、私は答えることができず、25 年間、考えてきました。

JICA のビジョンでは「信頼で世界をつなぐ」と書かれており、JICA 海外協力隊の目的は「開発途上国の経済、社会の発展、復興への寄与」、「異文化社会における相互理解の深化と共生」、「ボランティア経験の社会還元」となっています。

JICA 海外協力隊が発足する当時の日本の状況を振り返って見ましょう。日本は先進国ではなく、1 人当たりの国民所得は米国の 10 分の 1 であり、トランジスタなど一部の生産量がやっと世界一位になった時代である。全世界に日本製品を買ってもらうために青年の世界見聞を広めるために海外派遣が必要であったのではないのでしょうか。

その後、日本は高度成長期に入り、経済成長を遂げ、日本製品が世界に普及するようになりました。この時代までは、先進国の技術に追いつくことで、安く、品質の良い製品を生産することが可能になり、世界市場で日本製品が売れるようになったと思われます。

一方、現在の競争力は世界 35 位であり、中国や台湾の競争力が上であるのはもちろんであるが、JICA 海外協力隊の派遣先であるマレーシア、タイ、インドネシアの方が日本よりも競争力が上である。

さらに、日本の最高レベルの技術系大学院博士課程では中国、韓国や派遣先の国々からの優秀な留学生が学んでおり、日本で世界最高レベルの技術開発を行っている。

日本が誇るトヨタ自動車はアフリカを最後の残された市場とみなし、営業を展開している。

このような世界情勢の中で、JICA 海外協力隊は発足から 50 年以上経ち、4 万人以上の OB が国際人として色々な場所で活躍している。

ある経営専門家によると、新しい起業は経営に必要なビジョンを持った仲間に金融の仲間、技術力のある仲間、

さらに実行力のある仲間が集まることで起業が始まり、その集団を強気に支援する仲間が加わることで新規事業を成功に導くことが可能であると述べている。

ここで、JICA 海外協力隊員が海外で新しいビジョンを発見し、協力隊 OB 会、育てる会、シニア OB 会などが協力し、強く、この活動を支援することにより、多くの起業家が生まれ、世界に羽ばたく企業に発展する可能性があるのではないだろうか。JICA を中心に日本中の事業者が仲間となり、起業家を育てることによって、日本が再び、世界ナンバーワンになれる日が来るのではないだろうか。

青年海外協力隊千葉OB会 副会長 村田三七男

(昭和 60 年 1 次隊 コスタリカ 生産工学)



目次

1. 副会長挨拶
 2. 報告事項
 - (1) 総会開催（5月20日）
 - 1) 2022年度活動報告
 - ① 協力隊ナビ
 - ② 「協力隊まつり2022」概要（夏号No101に記載済）
 - ③ JICA エッセイコンテスト2022
 - 2) 会計概要報告
 - (2) 2022年派遣隊員の千葉県庁表敬訪問と壮行会
 3. 国際協力推進員着任の挨拶
 4. 「協力隊まつり2023」参加概要
 5. OBOG 寄稿
 6. 年会費納入のお願い
 7. 編集後記
- ～お知らせ～

2. 報告事項

(1) 総会開催（5月20日）

総会を浦安市国際センターにて開催しました。出席者はリアル参加並びにオンライン参加が共に6名ずつ、計12名でした。以下、概要です。

月	日(曜)	内 容	備 考
2022年			
4	23(土)	協力隊ナビ	浦安市国際センター(相談者0名)
	23(土)/24(日)	協力隊まつり2022	オンライン参加
5	14(土)	2022年度総会	浦安市国際センター
	28(土)	協力隊ナビ	浦安市国際センター(相談者0名)
6	25(土)	協力隊ナビ	浦安市国際センター(相談者0名)
7	13(水)	2022年度1次隊派遣前千葉県庁表敬訪問&壮行会	千葉県庁&汐菜(しおさい)
	23(土)	定例会	浦安市国際センター
	23(土)	協力隊ナビ	浦安市国際センター(相談者0名)
8	27(土)	協力隊ナビ	浦安市国際センター(相談者1名)
	28(日)	会報(No.101)発行	浦安市国際センターにて発送作業
9	13(火)	2022年度2次隊派遣前千葉県庁表敬訪問&壮行会	千葉県庁&汐菜(しおさい)
	24(土)	協力隊ナビ	浦安市国際センター(相談者5名)
	24(土)	定例会	浦安市国際センター
9月～10月		JICA エッセイコンテスト2022	エッセイ担当者(在宅審査、集合審査)
10	23(土)	協力隊ナビ	浦安市国際センター(相談者1名)

11	26(土)	協力隊ナビ	浦安市国際センター(相談者 1名)
	26(土)	定例会	浦安市国際センター、オンライン参加
12	16(金)	2022年度3次隊千葉県庁 表敬訪問&壮行会	千葉県庁&汐菜(しおさい)
	17(土)	協力隊ナビ	浦安市国際センター(相談者 4名)
2023年			
1	28(土)	協力隊ナビ	浦安市国際センター(相談者 4名)
2	5(日)	会報(No.102)発行	浦安市国際センターにて発送作業
	25(土)	定例会	浦安市国際センター
	25(土)	協力隊ナビ	浦安市国際センター(相談者 12名)
3	14(火)	2022年度4次隊千葉県庁 表敬訪問&壮行会	千葉県庁&汐菜(しおさい)
	25(土)	協力隊ナビ	浦安市国際センター(相談者 15名)

その他活動	JOCA 評議員会	—
	JOCA 社員総会	オンライン出席
	JOCA 関東ブロック会議(横浜)	出席(11/5)
	千葉県 JICA 協力隊を育てる会 理事会	出席(5/21, 7/16, 11/19, 1/7, 3/18)
	千葉県 JICA シニアボランティアの会 総会・講演会	出席(5/7, 9/10, 2/19)
	協力隊まつり 2022 オンライン打合せ	出席(4/5, 4/19, 5/11, 5/24, 6/3, 6/13, 6/21, 8/23, 9/29, 10/18, 11/9, 11/21, 12/27, 1/25, 1/31, 2/16, 2/26, 3/9)

1) 2022年度活動報告

① 協力隊ナビ

2022年度活動報告表のとおり、JICA 海外協力隊募集が始まったことにより、当会の「協力隊ナビ」相談者は年度当初は0名でしたが8月頃より相談者が増加しました。当会の「協力隊ナビ」は自由参加であり、毎月第4土曜日に14時から平澤OBを中心に実施しています。(2023年度からは毎月第3土曜日に変更)

② 「協力隊まつり 2022」概要(夏号 No101 に記載済)

過去2年の経験を踏まえて2022年度はリアル(市ヶ谷：JICA 地球ひろば、神戸：JICA 関西センター)とオンライン(Zoom)で開催され、当会は以下のスケジュールでOB・OGがオンライン参加しました。(敬称略)

4月23日(土)		4月24日(日)	
11:00 ~12:00	[協力隊活動と地域農業の貢献] 五十嵐大介、五十嵐早矢加	[協力隊活動と今の職業] 田仲永和	
12:00 ~13:00	[対談:JOCV 隊員活動と期待] 山崎鉄平、武井果奈子	[対談:派遣中活動と帰国後の進路] 鈴木拓馬、木村明日美、石井和由	
13:00 ~14:00	[協力隊活動と包摂的な地域づくり:「松戸市におけるSDGsをテーマとした市民活動の取り組み」] 佐藤秀樹	[協力隊経験を踏まえて「こども哲学対話」] 常磐亜矢子	
14:00 ~15:00	[「国際化教育推進フォーラム in 野田」の振り返り] 実行委員長 成瀬猛 委員 常磐亜矢子、西村邦雄	[対談:協力隊活動の経験と進路] 大長賢太郎、高橋克彰	

15:00 ～16:00	[対談:協力隊活動と地域おこし] 城谷俊太、三次恵美子	[アフリカ、大洋州、開発途上国、感染症(マラリア・蚊?)のお話] 渡辺 章
-----------------	--------------------------------	---------------------------------------

③ JICA エッセイコンテスト 2022

「JICA エッセイコンテスト 2022」(中学生の部 審査員長 尾木直樹、高校生の部 審査委員長 星野知子)の応募数は中学生の部 19,832 作品 (600 校)、高校生の部 24,048 作品 (284 校) であり、応募総数は 43,880 作品 (884 校) でした。当会ではエッセイコンテスト 937 作品の一次審査を依頼され、OB・OG7 名が 5 作品を選出しました。

千葉県からは高校生の部で国際協力特別賞を学校法人市川学園 市川高等学校 2 年生 箱守琴葉さんが受賞しました (タイトル「自文化理解」)。

2) 会計概要報告

令和4年度 (自: 令和4年4月1日 至: 令和5年3月31日) の会計決算は、下記の通りです。

<収入> 会費 (95名)、JOCA 共同事業費・交流事業費、エッセイコンテスト 2022、銀行利子

収入の部 合計 731,951 円

<支出> 活動 (会報発行、エッセイコンテスト 2022、協力隊まつり 2022、隊員壮行会負担分)

活動費 計 459,026 円

事務経費 (諸会費、送金手数料、旅費交通費、通信費、消耗品費等) 計 84,467 円

支出の部 合計 543,493 円

<当期収支> 188,458 円 <前年度繰越金> 806,897 円 <次年度繰越金> 995,355 円

(2) 2022 年派遣隊員の千葉県庁表敬訪問と壮行会

- ① 2022 年度 1 次隊 (7 月 13 日): 派遣隊員数 6 名
- ② 2022 年度 2 次隊 (9 月 13 日): 派遣隊員数 5 名
- ③ 2022 年度 3 次隊 (12 月 16 日): 派遣隊員数 7 名
- ④ 2022 年度 4 次隊 (2023 年 3 月 14 日): 派遣隊員数 6 名

上記の表敬訪問並びに壮行会に当会からは西村会長及び役員が出席しました。



表敬訪問 (千葉県庁) (1 次隊)



表敬訪問後の記念撮影 (4 次隊)



壮行会の食事 (2 次隊)



壮行会後の記念撮影 (3 次隊)

3. 国際協力推進員着任の挨拶

皆様、初めまして。今年7月より前任の木村に代わり、JICA 千葉デスクに国際協力推進員として着任いたしました岩沢久美子と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

小3から大学卒業まで千葉県千葉市で育ち、卒業後は主に途上国を転々としてきましたが、2020年3月にコロナを機に帰国し、現在は実家のある千葉市に戻ってきております。皆さんのように協力隊の経験はないですが、これまで大使館や国際機関の業務等で中東地域（シリア、イエメン、ヨルダン、イラク、レバノン）やアフリカ地域（エチオピア）、JICA とはミャンマー事務所や本部で主に途上国教育開発協力の業務を行ってきました。また、直近の JICA 本部の業務では、国内にいる外国につながる子どもへの教育支援や多文化共生にかかわる業務に携わってきました。

約 20 年ぶりに故郷の千葉市に戻ってきて、駅や近所のコンビニ、娘の学校などでも外国の方が増えたことと実感しております。ほとんどの方にとってはこれまではどこか遠い国の話だった「外国」が身近な生活の一部となっていると思います。そのため、これらの外国の方々が日本人とともに気持ちよく安心して暮らせるインクルーシブな社会を構築いくことが重要になっており、その中で協力隊経験者の皆様の存在がこれまで以上に貴重になっていると強く感じております。

派遣前から帰国後まで協力隊経験者の縦横のつながりの軸となってくださっている本青年海外協力隊千葉県 OB 会の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、

今後は推進員として、皆様のお力をお借りしながら、これからの千葉県を作り上げる一助となればと考えております。そのためにも、引き続き OB 会役員の皆様、派遣中の隊員の皆様、OB 会の会員の皆様のお力添えをいただけますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。



JICA 東京/千葉デスク
岩沢久美子

4. 「協力隊まつり2023」参加概要

前年度はリアル（市ヶ谷：JICA 地球ひろば、神戸：JICA 関西センター）の2ヵ所とオンラインで同時に開催されましたが、2023年度は4年ぶりに「協力隊まつり2023 in 市ヶ谷」がリアルで4月22日（土）・23日（日）に開催され、地方/外国からオンライン参加もありました。

この「協力隊まつり2023」には多くの協力隊 OB・OG 会や関連団体が参加し、展示・物販・セミナーなどを通じた世界各国での活動内容や、帰国後の活動を紹介しました。また、リモートプログラム（会場でオンライ

ンを使用してインタビュー&撮影）では学生ボランティアが活躍しました。さらに、J's カフェでは22日（土）は去年の1.5倍が完売、23日（日）は2倍が完売したそうです。

当会は JICA 地球ひろば（東京・市ヶ谷）にて参加しました。今回は 2019 年まで実施してきた「千葉県出身派遣中隊員活動パネル展示」と「応募相談」に加えて、初めて物品販売（キルギス OB・OG 隊員による“キルギス製品、加工食品/化粧品”の販売）、子供から大人を対象にしたクイズ会を OB・OG が実施しました。

以下の写真は物品販売とクイズ会の様子です。



5. OBOG 寄稿

S49-2 前期 マラウイ 構造設計 梶野良夫



【船橋市民陸上大会 2022】

「趣味について」

私は千葉 OB 会においてサポーターで関わっております。

私の趣味は数種類ありますが、一番長いのは陸上競技（長距離、マラソン）です。中学 2 年の 13 歳から継続して 76 歳迄 63 年になりました。自慢できるほどの記録・実績は保持していませんが、今のところ元気で過ごせているのが私にとってご褒美と思います。

長いこと続けていると、ランニングを通して多くの経験をしました。1964 年は最初の東京オリンピックでし

た。高校 2 年の時に学校から推薦されて聖火リレーに参加できることになりました。第 1 副走者だったので火の付かないトーチを持って幕張の国道を約 1 km 走りました。当時の聖火ランナー選考基準は 20 歳前後の若い人を選んでいました。石川県では横綱になった高校相撲の輪島が走ったそうです。

昭和 50 年、51 年はマラウイへ派遣されました。この間、余暇に地元のクロスカントリー走やマラソン大会に参加しました。一度、マラウイ中部地区の全国マラソン予選大会に出場し、運よく優勝したことによりマラウイ選手権マラソンに出場できました。この大会はテレビ網が無いので、ラジオで中継されました。マラウイ人の同僚が聞いていてくれましたが、終盤疲労と体調不良の為にタイヤしてしまいました。翌日出勤した際に同僚から途中から名前が消えたので心配したと言っていました。ちなみにマラウイは当時オリンピックにマラソン選手を派遣していました。

現在はマスターズ陸上競技連合に加入して陸上競技を続けています。マスターズは 5 歳刻みの部門で競います。私の場合 75 歳から 79 歳のクラスです。このため、75 歳になりたての競技者が有利になります。若い頃と違い、この年になると毎年確実に記録が低下します。厳しい現実なのです。その為、次の目標は 80 歳まで生きて上のクラスで競うことです。生きていれば優勝のチャンスが高まります。目標の大会は全日本マスターズ陸上大会です。1 回だけ 70 歳になりたての時に 800m でラッキーにも優勝しました。全国大会はコロナ禍で 3 年中止でしたが、今年は 10 月に山口県において 4 年

振りで開催されます。全国のライバルに会えるので楽しみにしています。

今後も体調に留意しながら、練習、休養、栄養を図って生活できるよう頑張ります。

S51-2前期 ケニア 測量 浜田真一

「私の健康法はバドミントン」

人生100年時代の今、団塊世代の最後の昭和24年に生まれ今年74歳になろうとしています。毎日が日曜日の中、精神的にも肉体的にも健康を維持できているのはなんといってもバドミントンを続けているからだと思えます。

高校2年生から始め、今年で57年目となりましたが、よくもまあ続けられていると不思議な気持ちになります。コロナ前の週3日の練習が今は4日になってしまいました。バドミントンをやっていたらコロナに罹患するリスクは少しは軽減できると思っていたのですが、昨年5月に家庭内感染でしっかり罹ってしまいました。ただ、日ごろの健康管理のお陰で重症化することなく、1週間くらいでなんとかもとに戻りました。

それにしても、バドミントンに出会い大学・社会人時代を通して継続してプレーを続けている理由はよくわかりません。27歳で協力隊に参加してケニアに派遣された際もラケットとシューズはしっかり持っていき、インド人をはじめ現地の方々と遊びました。30歳で帰国後JICAに入団してからはJICAバドミントン部に入部して新宿区や東京都実業団などの大会に参加、個人戦（基本ダブルス）では金メダルなどもとりました。

プロ選手はともかくアマチュアに引退はないと考えており、どこまでやれるかわかりませんが、80歳くらいまではシングルスプレーしたいと考えています。それにはなんといっても健康管理が大切です。一番は食生活です。シニアになると食事の量は減る傾向にありますが、家内の協力があり食生活は極めて安定しています。サラダなどの生野菜が一日一回は必ず出てきますし、肉や魚もバランスよく出てきます。健康の源は食事とよく言われますが、まさにそれを実践しています。ヘルパーをしている家内のお世話になるのはもうしばらく先になるようですが、専業主夫として家庭内のことはできるだけやるようにしており、家事も創意工夫が必要で大変な労働であることを実感しています。

ともあれ、今はバドミントンが生活の中心にあり、バドミントンを続けるために猛暑の中でも練習に励んでいます。熱中症のリスクの高い高齢者となってしまいましたので、無理は禁物です。特にこの夏は注意が必要です。

そして最大の目標は全日本シニアでの好成績です。千葉県代表として2006年北海道での大会に初参加してダブルス・シングルスともにベスト16に入りましたが、以降それを越す成績を収めていません。勝負事は勝ってなんぼの世界、ただ参加するだけでは面白くありません。前期高齢者となって以降は大会で知り合った全国の選手との年一回の安否確認の場となりつつありますが、目標は高く持って日々精進し、長生きしたいと思っています。



6. 年会費納入のお願い

当会の会報は派遣中隊員と帰国隊員の寄稿、並びに報告事項などで構成され、年に2回（夏号、冬号）を発行しています。この会報の発行が当会の支出費目として大きなウェイトを占めています。

つきましては、当会運営の生命線である「年会費（1口「1,000円」）」のご協力をお願いします。2口以上のご支援も大歓迎です。当会運営の生命線は「年会費」ですので、引き続きご協力いただくようお願いいたします。尚、振込にあたっては「派遣国」と「隊次」を必ずご記入ください。

☆振込口座は以下の2行のどちらかをお願いします。

銀行名	: ゆうちょ銀行（当座預金）	銀行名	: 三菱UFJ銀行 船橋駅前店
店番	: 029（ゆうちょ以外からの振込用）	記号/口座番号	: (普) 4769024
記号/口座番号	: 00290-1-96562	名義人	: 青年海外協力隊千葉OB会
名義人	: 青年海外協力隊千葉OB会		

7. 編集後記

今年も暑い夏の最中にキャンプへ出掛けました。友人たちと焚き木を囲いながら過ごしたり、炭が燃える様子をただ眺めたり、普段の生活では得られない時間が心地よかったです。キャンプ場近くにあった天然氷をオリジナルのシロップでいただくかき氷は、なんとも落ち着く味わいでした。琥珀蜜のかき氷は初めてでしたが、優しい甘さで美味しかったです。例年はほとんどかき氷を食べない生活ですが、今年は珍しく何度か食べる機会に恵まれました。暑さが和らぐまでまだ暫くかかりますが、のんびりとかき氷を食べられる今を大切にしようと思います。

(平成27年度3次隊 ウズベキスタン PCインストラクター 高石 千絵)

～お知らせ～

ホームページのご紹介

新ホームページはまだまだコンテンツが少ないので、掲載する内容など募集中です。地域での国際交流活動など、なにかネタがあればご連絡ください。

URLは下記ですが、「青年海外協力隊千葉OB会」で検索していただくことでもアクセスできますので、是非ともご覧ください。

青年海外協力隊 千葉OB会 ホームページ: <https://jocvchiba.org/>

メーリングリスト/Facebookグループのご案内

上記ホームページにて、当会のメーリングリストとFacebookグループへの参加をご案内しております。是非ご参加ください。

連絡先 お問い合わせや会報への寄稿は info001@jocvchiba.org までお願いします。